

ID: 患者ID

氏名: 氏名

新規作成日: 新規作成日

日付経過	1 日前	当日術前	当日術後	1 日後	2 日後	3 日後
目標	転倒予防行動がとれ、転倒がない 手術について理解できる 入院生活について理解できる	安全に手術が受けられる	創痛時、適切に対応受けられる	創痛時、適切に対応受けられる 離床ができる	食事摂取でき、消化器症状がない	
注射		← 点滴 →				
投薬	内服中の薬を確認 午後の14時に下剤を内服	朝、必要があれば、薬の種類により少量の水で内服		内服薬の再開について看護師がお知らせします 病状により処方が出る場合があります		
検査	採血		手術後、採血	朝、採血		
放射線			胸腹部ポータブルX線撮影	胸腹部ポータブルX線撮影		
処置	身長・体重測定 血栓症予防のため靴下のサイズ測定	手術着に着替え、血栓症予防のため靴下を履きます	手術後、酸素投与 心拍や呼吸・酸素濃度などを測定する器械を装着 血栓症予防のための機械を足につけます			
	歯科受診			手術部の観察やガーゼ交換などを行います 歩行確認後血栓予防の靴下を脱ぎます 口の中の確認をするため歯科にかかる場合があります		
食事	夕食後以降は絶食 飲水可能時間は別途お知らせします	飲水、食事はできません。うがいはできます		飲水開始	朝から食事開始	
		飲水は1日に1L~1.5Lを目安にとってください				
清潔	臍(へそ)の掃除をします 16時までにシャワー浴	手術30分前までに歯磨きや洗面を済ませてください		体拭き、陰部の清潔		
排泄			手術室で尿道に管が入ります			便通調整をはかり、状況により薬を処方することがあります
活動	安静度	制限はありません。	ベッド上安静 血栓予防に足首の曲げ伸ばしや膝立て運動をすると効果的です	安静終了 術後初めての歩行は看護師と一緒に歩きます	ベッドから離れて活動することで回復が早まります。 どんどん歩きましょう ふらつきなどあるときは看護師と一緒に歩きます。	
	リハビリ	リハビリテーションの予定はありません				
看護ケア	入院時と寝る前に検温を行います	朝と手術室にいく30分くらいに検温を行います	手術後、適宜検温を行います	← 検温をおこないます →		
	病棟生活について説明します 手術について病棟と手術室の看護師が説明します 必要な物品を確認します		手術の傷の状態や、お腹の症状の観察など、術後合併症がないかの観察を行います 痛みが強い時、尿意が我慢できない時には、臨時的痛み止めを使用します			
指導	医師より手術の説明があります (外来で終わっている場合あり) 麻酔科医より手術時に行う麻酔についての説明があります 薬剤師が普段内服している薬の確認と入院中に使用する薬の説明をします	眼鏡、貴金属類は外してください 貴重品は付き添いの方に渡してください 付き添いの方は手術開始予定時刻の15分前に入院病棟にお越しください 手術中病棟で待機して頂きます	手術の結果を担当医師が説明します	尿の袋はベッドの脇にさげ、床につけないようにしましょう 歩行時は、膀胱より下の位置で持ってください 尿の管を折り曲げないように注意が必要です 尿の管の周りから尿が漏れても異常ではありません 看護師にお知らせください		

ID: 患者ID

氏名: 氏名

新規作成日: 新規作成日

日付経過	4日後	5日後	6日後	7日後	8日後	9日後
目標	転倒予防行動がとれ、転倒がない 創痛時、適切に対応受けられる 食事摂取でき、消化器症状がない 排便コントロールについて理解できる		自尿があり、残尿感などの症状がない 尿漏れ時対応ができる 骨盤底筋体操の必要性がわかり実践できる		自尿があり、残尿感などの症状がない 骨盤底筋体操の必要性がわかり実践できる 日常生活の注意点について理解できる	
注射						
投薬						
検査						
放射線		尿道の造影検査 (平日)				
処置	 手術部の観察やガーゼ交換などを行います 排液量によりお腹に入っている管が抜けます (術後4日目~6日目の間)					
			 回診時、医師が尿の管を抜きます			
食事	 飲水は1日に1L~1.5Lを目安にとってください					
清潔	 お腹の管がぬけるとシャワー浴ができます 管が抜けるまでは体拭きと陰部の清潔を続けます		シャワー浴又は体拭き 退院後1週間はシャワー浴、その後は入浴できます			
排泄			尿の管を抜いた後は尿量を確認します 尿漏れがある場合は尿取りパットの重さも測定します			
活動	安静度	 制限はありません。				
	リハビリ					
看護ケア	 ← 検温をおこないます →					
	手術の傷の状態や、お腹の症状の観察など、術後合併症がないかの観察を行います 痛みが強い時、尿意が我慢できない時には、臨時の痛み止めを使用します					
指導	パンフレットと照らし合わせながら骨盤底筋体操についてのDVDを視聴します 尿の管を抜いた後は尿が漏れる可能性があるため検査日までに尿とりパッドを用意してください		痛みのない程度で骨盤底筋体操を始めてください 尿漏れがある場合でも、長期間体操を続けることで徐々に改善します 退院後も継続して実施してください		看護師から退院後の生活、緊急時の受診の目安などについて説明します 術後の結果については医師より次回外来で説明があります	会計を確認後にスケジュール表や診察券などを渡し、退院になります 9時30分頃の予定です。